

令和6年度持続的生産強化対策事業のうちジャパンフラワー強化プロジェクト推進

「令和6年度県内花き流通効率化に係る現地実証」 実施報告書

目 次

■事業実施要領	P1
---------	----

■ 事業実施報告	P2
----------	----

1. 取組みの背景

2. 県内花き流通の現状

3. 現地実証について

4. 実証結果について

5. 考察とまとめ

6. 今後の課題

県内花き流通における効率化の実証 実施要領

1. 背景と目的

物流の2024年問題への対策として、産地や物流事業者、実需者が協力して物流の効率化を図ることが必要になっている。

本取組では、流通効率の向上及びコスト低減を目的に、名取カーネーションの出荷箱規格を再検討し、実証試験を実施するもの。

2. 主催

宮城県花と緑普及促進協議会

3. 実証チーム

- ・宮城県花と緑普及促進協議会
(株式会社仙花、宮城県園芸推進課)
- ・名取市花卉出荷組合（高柳地区）

4. 実証期間

令和7年1月から令和7年3月まで

5. 実証内容

出荷箱の規格を新たに検討し、試作箱を用いて試験出荷することを通して、積載効率や作業性、資材価格への影響を調査する。

- (1) 積載効率・資材費への影響について試算
- (2) 作業性への影響についてアンケート調査
- (3) 出荷箱変更による流通への影響に関する聞き取り調査
- (4) 結果の取りまとめ

6. 予算

令和6年度持続的生産強化対策事業のうちジャパンフラワー強化プロジェクト推進

- (1) 花き流通の効率化等の取組

ウ 流通の効率化等に資する技術実証、報告書作成等 421,552 円

1. 取組みの背景

「働き方改革関連法」の改正により、令和6年4月1日から自動車運転業務についても年960時間の時間外労働時間の上限規制が適用されたことに伴い、2030年には34.1%の輸送能力不足が懸念されている。特に業界別にみると「農産・水産品出荷団体」は32.5%の輸送能力不足が懸念され、対応が急務となっている。

また、燃料費及び資材費の高騰も続いており、生産者にとって厳しい状況となっている。一方、花きの出荷箱の標準化は遅れており、品目・産地等の違いでそれぞれ異なる資材を使用している。加えて、長年、出荷箱の規格を変えていない産地もあり、改めて花の出荷規格に合わせた出荷箱規格を検討することで、流通の効率化につながる。

2. 県内花き流通の現状

県内のカーネーションの産地では、産地内で出荷組合を結成し、一括してトラックに積み込み、仙台市場に出荷している。現在、出荷に用いているトラックの荷物量には余裕があり、多少出荷箱が大きくても運賃等への影響は出ていない。しかし、高齢化による生産面積の減少や離農があれば、出荷組合独自での出荷が困難となり、運送会社等を利用した出荷に変更すること可能性が高まる。通常、荷物の運賃はサイズと重量によって変動する。よって出荷箱の規格を再検討する必要性が高まっている。

【現状の課題まとめ】

- ①花の出荷規格と、出荷箱の規格が合致していない。
- ②将来的に運送会社等に出荷を依頼した場合、運賃等が経営を圧迫する可能性がある。

3. 現地実証について

(1) 実証内容

： 前述の背景・現状を踏まえ、出荷箱の規格を新たに検討し、試作箱を用いて試験出荷することを通して、積載効率や作業性、資材価格への影響を調査する。

【実証の流れ】

- ① 出荷箱の規格の再検討及び試作
 - ② 試作箱を用いた試験出荷
 - ③ 経済性、作業性の評価
- 以上、①～③の流れで実証する。

(2) 実証時期

： 令和7年1月から令和7年3月まで
※毎週、火曜日、木曜日、日曜日に集出荷している。

(3) 調査項目

- ： ① 梱包作業時間への影響について聞き取り調査（産地）
② 梱包時の作業性への影響について聞き取り調査（産地）
③ 物流への影響の聞き取り調査（卸売業者、仲卸業者）
④ その他

(4) 想定されるメリット

- ・ 流通の効率化（産地・市場関係者）
- ・ 出荷箱単価の低減（産地）
- ・ 作業性の向上（産地・市場関係者）

(5) 出荷箱規格について

【現行箱】

- ・ 規格：横幅 900mm×奥行 300mm×高さ 130mm
- ・ 3辺合計：1330mm

【試作箱】

- ・ 規格：横幅 800mm×奥行 300mm×高さ 130mm
- ・ 3辺合計：1230mm

4. 実証結果について

(1) 梱包作業時間への影響について（産地）

- ・生産者6名中4名が現行箱と同等、2名が現行品より梱包作業時間が短くなったと回答した。（10箱あたり1分程度）

(2) 梱包時の作業性への影響について（産地）

- ・生産者6名中6名が、取り回しが良くなり、箱を組み立てるのが楽になったと回答した。
- ・生産者6名中1名が、保管場所を取らなくなったと回答した。

(3) 物流への影響の聞き取り調査（卸売業者、仲卸業者等）

- ・市場関係者9名中7名が出荷箱変更による物流への影響はなかったと回答し、2名が少し良い影響があったと回答した。（扱いやすくなった／箱への収まりが良くなり、見栄えがよかった。隙間が減少したことで、花の擦れが抑えられる）
- ・市場関係者9名中7名が出荷箱変更による支障はないと回答し、2名が少しあると回答した。（箱が小さくなることによる擦れによる痛みが心配／品種によりもっと長さが欲しいものがある）

(4) その他

- ・花のボリュームが出てしまった際は、試作箱では綺麗に収まるか不安（産地）
- ・100mmのサイズ違いと聞くと、あまり違いは感じないが、実際に扱う上では作業性などが想像よりも良くなっている（卸売業者、仲卸業者等）

6. まとめ

(1) 梱包作業時間への影響について

- ・花の出荷規格に合わせた出荷箱に変更したことで、梱包に要する時間が増加することが想定されたが、出荷箱が小さくなったことにより、取り回しがよくなり、梱包作業時間が短縮した。

(2) 作業性への影響について

- ・現行箱では900mmあった横幅が、試作箱では800mmに変更したことで、梱包作業や、積込作業、市場内での運搬等で、扱いやすくなったとの声があがり、運賃等以外の点でも良い影響があった。

(3) 物流への影響の聞き取り調査（卸売業者、仲卸業者等）

- ・市場における物流への影響は大きくはなかったが、ほとんどの関係者が出荷箱を変更することによる支障はないと認識していた。しかし、花の擦れを心配する意見もあがっ

ている。

(4) その他

- ・産地からは、出荷箱を小さくすることで、見栄えが悪くなり、単価が下がるのではという声も上がっていたが、実際に試作箱で出荷したところ、反対に見栄えが良く、花の擦れが抑えられるとの話があったため、懸念点は払拭された。
- ・試作箱は現行箱よりも約8%容積が小さく、積載効率が向上した。
- ・出荷箱の単価の比較では、サイズを小さくすることで単価を抑えられると想定していたが、今回の試作では従来箱と試作箱の単価は同等となり、資材価格の低減には繋がらなかった。

7. 今後の課題

今回、実証を通して産地・市場における出荷箱変更による影響を把握することができた。また、流通の効率化という点では、出荷箱を約8%サイズダウンができた。加えて、梱包作業を含め、持ち運びの取扱いが楽になった等の声があがった。

しかし、当初の目的の1つであったコスト低減に係る資材費については同等であったことや、出荷箱を変更することによる花きへの影響を心配する声など課題も多く残った。

今回の実証では、1月～3月の短い期間であったため、気温が高く、花きの成長が早くなった場合、出荷箱の規格を変えたことによる不具合が生じる可能性も考慮する必要がある。また、擦れ等による花きへのダメージは商品価値を低下させるため、出荷箱の規格変更には慎重な検討が必要である。また、資材費の低減という点において、今回の規格変更（サイズダウンの変更）では影響は出なかった。資材費を抑えるためには、材質等、その他仕様の変更も検討する必要があることが分かった。

最後に、産地によって品目や出荷形態、集出荷体制等はさまざまであり、産地ごとに課題を整理し、産地や市場等とともに対応を検討していく必要がある。また、県内各産地の取組みを共有し、県全体として花き流通効率化の取組を推進していく体制を整えていくことが重要であると思われる。

以上